

北 河 内 会 報

自 然 愛 好 会

2018年8月20日 №.103
北河内自然愛好会発行
事務局：大東市野崎 3-7-7
西畑敬一 方

ホームページアドレス：<http://www.cc-net.or.jp/~ja3aeh/3shizen/3-3kitakawati.htm>

第 395 回例会「JR 生瀬から武田尾廃線跡を歩く」兵庫県西宮市・宝塚市 2018年5月26日（土）

安藤香子

出発時、イソヒヨドリの美しい声で幸先のよさを実感。廃線跡への道すがら出会ったオナガバチは超個性的な姿、私の固定観念で固まった頭を程良くほぐしてくれました。廃線跡では V 字溪谷を流れる川の勇壮な景観に、何度も声を上げていました。暗いトンネルをくぐりぬける毎に、目に入ってくる光と緑は本当に美しくて気分を洗ってくれました。次々出会う植物や虫たち、見て、触れて、葉っぱや実を時にはかじってみたりして、参加された皆さんと一緒にワイワイ楽しく、たくさん語り、たくさん笑い、たくさん学びあいました。

虫たちは活動真っ盛り、フユザンショウは私達のいい遊び相手として、度々登場してくれました。シマヘビとの出会いは願ってもないサプライズでした。西畑さんはヘビ族と旧知の間柄だったようで、まるでヘビ使いのように雌ヘビの首根っこを捕まえて、拝顔のチャンスをごいただきました。ヘビにとってはヘビーな出来事だったでしょうが、いたいけなあの瞳の可愛さ、忘れられません。しっぽと腹部に境界線があることも教えていただきました。アオバトの亡骸に遭遇したことも心に残っています。美しい亡骸には、すでにありがたかり始めていました。生きること、死んでいくこと、そして種を超えて命はつながっていくこと、自然の摂理の一端をあらためて学ばせてもらえた気がします。

西畑さん、みなさま、有意義かつ楽しい一日を本当にありがとうございました。

◎参加者：安藤香子、稲原良三、稲原ヒサエ、岡田三千代、高見君江、田中光彦、東郷弘子、長島照文、中町苓子、西畑敬一、波多野恵子、丸山祝榮（以上 12 名）

第 396 回例会「神戸薬科大学薬用植物園見学」神戸市東灘区本山北町 4 丁目 2018年6月7日（木）

粟田泰子

心配した前日の雨も上がり、7 日当日はムシムシするものの穏やかな観察日和でした。甲南山手駅に 23 名が集合。田中さんの案内で六甲山麓の神薬大キャンパスまで路傍の隙間植物などを見ながらゆっくり歩く。正門を入り受け付けに並んで順番待ちをしていたら、受付の背後の斜面にテッポウユリがたくさん咲いているのが見えた。その後、3 階の海見える学生食堂で若い学生に混じって食事をすませ、13 時 30 分からいよいよ見学開始。若い 2 人の薬用植物園係の説明を受けながら二手に別れて段々畑のような薬草園をゆっくり見て回りました。段々畑からは遥か下に海やビル群が見下ろせ、時折風が吹き上がり解放感がありました。圃場の広さは 2,776 m²、そこに約 1000 種の植物が栽培されています。温室は小規模ですが 230 種が栽培されています。

観察が始まると温室前のプランターのアマの花が涼やかに出迎えてくれました。最下の圃場から歩き始めました。順不同で栽培植物を挙げると、ムラサキ科のルリヂシャ(別名ポリジ)の花、マルバハッカ、ハッカ、セイヨウハッカ、アマミアマチャ、アマチャ、クコ、メハジキ、トリカブト、ジギタリス、ケジギタリス、トキワイカリソウ、トウキ、セリ、センキュウ、ウイキョウ、チョウセンニンジン、センブリ、オウレン、シャクヤク、ボタン、キキョウ、カミツレ、イブキジャコウソウ、ヒガンバナ、ウド、

ドクダミ、ジュズダマ、ハトムギ、クララ、チガヤ、サンシュユ、クスノキ、ナツメ、ショウガ、エビスグサ、コウホネ、ベニバナ、カラスビシャク、オケラ、ノイバラ、ビワ、ヤマノイモ、アカネ、サルトリイバラ、ウマノスズクサ、アリマウマノスズクサ、アシタバ、キササゲ、ヒナタイノコヅチ、ゴボウ、トクサ、ナルコユリ、オオナルコユリ、アマドコロ、ジロボウエンゴサク、サンシチソウ、イラクサ、フタバアオイ、ゲンノショウコ、ウツボグサ、オオバコ、ヘラオオバコ、リンドウ、コンニャク、サフラン、ローズマリー、タラノキ、メダラなど耳に馴染んだ植物が大半でした。こんなものにも薬効があったのだと驚きと感動を新たにしながら、噛んだり匂いを嗅いだり各自思い思いの目で観察が続きます。

ところがやはりそこは薬用植物園。耳にしたことがあっても見る機会の少ないものや私には全く未知のものも沢山ありました。ウオンマイパイン、ボタンボウフウ、アカヤジオウ、コガネバナ、シナマオウ、アザミゲシ、ネジアヤメ、アキノワスレグサ、ステビア、サボンソウ、キセウタ、ホルトソウ、パンダカンアオイ、ヒレザンショウ、ミブヨモギ(日本新薬資料館で初見)、ゴシュユ、キョウオウ、ガジュツ、クサスギカズラ、ヒヨス、ビャクブ、ミツバベンケイソウ、ハマギク、チョウジソウ、クスリウコン、シマラッキョウ、ミシマサイコ、ベラドンナ、ムラサキ、アミガサユリ、オオハンゲ、ホップ、セイヨウワサビ、ダンドク、ハマボウフウなどです。

温室の栽培植物では南方系のニッケイの芳香とイランイランとレモンバームのような香りのハーブ、ウサギゴケが印象に残りました。その他ゲットウ、毒草のホシアザミ、ヘビ毒の解毒に用いられるメギ科のミヤオソウ(別名ハッカクレン)、床一面に広がっているキクガラクサ、棚には実を付けたアズマシロカネソウの鉢植えなどが見られました。

薬用植物(有用植物・希少植物・有毒植物も含む)は、例えば先に挙げたドクダミを始め、ナツミカン、ユズ、ラッキョウ、ノビル、オランダキジカクシ、サネカズラ、センニンソウ、ヘクソカズラ、ヒレハリソウ、ジャガイモ、タマネギ、ヒゴタイ、ムベ、クサノオウ、ウコン、チョロギ、カラスウリ、キカラスウリ、アケビ、スイカズラ、センダン、キウイ、ギョウジャニンニク、クリスマスローズ、ゴマ、ヤナギタデ、バクチノキ、キハダ、ニワトコ、ウコギ、ワタ、メグスリノキ、ドイツスズラン、スズラン、キンミズヒキ、カリガネソウ、ミズヒキ、コブシ、ヤーコン、ノカンゾウ、ユウスゲ、ケンポナシ、メギ、クガイソウ、オミナエシ、フジバカマ、カワミドリ、ヒキオコシ、タイトゴメ、イブキトラノオ、カンアオイの仲間、ラショウモンカズラ、ヒトリシズカ、フタリシズカ、ツルナ、レンゲツツジ、ムサシアブミ、ミツマタ、タデアイ、カンナ、サンショウバラ、ホルトノキ、ナギ、イスノキ、シラー、ツルニチニチソウ、ムクロジ、モクレン、オニグルミ、フェイジョア、ヒトツバタゴ、テンダイウヤク、シャクチリソバ、ヤマコウバシ、トチュウ、カツラ、クロモジ、シロモジ、タラヨウ、トチノキ、ホオノキ、ニッケイ、ハーブ類等々は山野、町中の公園、植物園、社寺林、畑、民家の庭で見かける機会がありますが、特殊な薬草は専門的に栽培・育種されている製薬会社の薬草園や薬大付属薬草園でしか見られません。これからもこうした機会があれば参加して知見を広げたいと思いながら駅までの急坂を下りました。田中さまありがとうございました。

◎参加者：栗田泰子、稲原良三、遠藤エチ子、新谷慶子、高見君江、田中光彦、中野潤子、中町苓子、西川節子、西畑敬一、波多野恵子、発 ひとみ、藤原くに代、里見 修、井和丸隆、井和丸洋子、小川 博、小川さん母、川原節子、大塚るい子、村上静恵、丸山祝榮、福山カズ子(以上 23名)

第 397 回例会「八幡市男山(石清水八幡宮) 観察会」京都府八幡市 2018 年 7 月 1 日 栗田 泰子

暑い一日の始まりにも拘わらず京阪八幡市駅に 14 名が集まり、木村さんの案内で元気に出発。今日の観察主眼はシダ植物なので、歩き始めて直ぐに石垣に生えているノキシノブ・トラノオシダ・カニク

サ・イヌケホシダ・イノモトソウを教えてくださいました。特にイノモトソウは 2 形性で孢子葉と栄養葉があることを教えてくださいました。沢沿いの道を進むにつれ、ヤマアイやヒメブタナ・ザクロソウが見られ、イヌカタヒバ・フモトシダ・コンテリラマゴケ・ジュウモンジシダ・シケチシダ・イワガネゼンマイ・ノコギリシダ・イノデ・オオカナワラビ・ヤブソテツ・マメツタ・ホソバカナワラビ・オオバノイノモトソウ・リョウメンシダ・オオカナワラビ・ベニシダ・ミドリヒメワラビ・オオベニシダ・コバノイシカグマ・サイゴクベニシダ・イヌシダ・ハカタシダ・アイノコクマワラビ・イワヒメワラビなどが出現。その間、ホソバカナワラビが根茎は長く横走するがジュウモンジシダは株立ちすることを教わりました。不動尊までは沢沿いで多様なシダが見られました。

本日のもう一つの目的は腐生蘭のタシロランの発見でしたが、不動尊までの間に数カ所立派な花をつけたタシロランが現れ一同感嘆の声をあげました。タシロランはほんの 1 週間ほどが見頃で、花の後は速やかに跡形もなく消える儂くも深い無葉蘭であるということも教わりました。

ケーブルの下をくぐり神應寺で一休みした後、尾根道に入ると、コシダ・ワラビ・ハリガネワラビ・コハシゴシダなどが見られるもののほぼベニシダの天下。とはいえシダがないので樹木や草本に目が向き、花をつけたコクランを見つける人、サカキ・カゴノキの幼木・カラスザンショウの幼木・クロバ イ・ナナミノキ・クロガネモチを見つける人。思い思いに尾根歩きを楽しみました。

標高 142.8m の三角点で休憩と集合写真撮影の後、山を下り石清水八幡宮へ出発。駐車場上のエジソン広場で早目の昼食後本殿を一周して大径木のクスノキを眺め、オガタマノキ・サカキ・ナギ・カヤを見てから裏参道を下山。ここにも出ましたタシロラン。帰りもモチノキ・ハグロソウ・蕾をつけたウバユリ・ホウチャクソウ・ヒメチドメ・コバノヒノキシダ・ヤワラシダ・ホソバイヌワラビ・ナガバヤブソテツ・テリハヤブソテツを教えてくださいながら全員無事に頓宮に下山しました。

残念ながらイワトラノオ・クルマシダ・チャセンシダ・カギカズラは発見できませんでしたが、充実した観察会となりました。木村さんの丁寧な説明に感謝します。

◎参加者：栗田泰子、岩井幸恵、大倉秀子、影千恵子、木村雅行、鈴木永子、高見君江、田中光彦、長島照文、中町荅子、西畑敬一、宇気京子、篠田長政、松平盛夫（以上 14 名）



タシロラン

(カラーグラビア版でも見てください)

《会員交流コーナー》*****

§§<天野川遊歩道から>春の陽光の中、天野川の遊歩道を歩きました。

1. 春眠；中洲のカルガモ、陽光を浴びて夢うつつ、気持ちよさそう。
2. ツグミ；チョコチョコと走っては止まって、背伸びして、眺めるはやがて帰る故郷の空か。
3. 藤が尾の田んぼがなくなる大掛かりな工事が、天野川の堤防まで崩して進んでいます。ここは昔シギの観察場所で、タカブシギを下土居さんに教えて貰ったところです。（4/10・平 研）

§§<山のムシたち>一昨日、久しぶりにいきものふれあいの里を訪れ、樹木の標識を裏返しして覗いてみたところ、まだ越冬中のムシたちがいました。ザトウムシは肢が 3 本切れていて、厳しい生きざまを見せていました。（4/19・平）

§§<教えて～シダ>昨日住吉公園の調査に行ってきました。コゴメイヌノフグリが繁茂していました。分からないシダもありました。同定をお願い致します。種名でなくても、分かるところまででいいですから教えて下さい。住吉公園・シダの仲間（ヤブラン植栽の中で根茎がはっていました。sida1.jpg～

4) 根茎が白いか鱗片のようなもので覆われていていました。最下羽片が大きい。

神戸から来た方がカルガモの3倍くらいある大きなアイガモ(マガモ)を見たと言っておられました。鳥専門の方なので間違いはないと思います。(4/25・北川ちえこ)

§§<教えて～スゲ>住吉公園：スゲの仲間(シダとは別のヤブラン植栽の中で、根まで抜けませんでした。sugel.jpg～3) 図鑑などを見て、カンスゲの仲間に似ていると思いました。全くのあてずっぽうです。(4/25・北川)

§§<教えて>住吉公園：・地肌が迷彩色のマツ(matu.jpg)・コゴメイヌノフグリ?(kogome1、2) 花は小さいのに果実がや種子がとても大きく、びっくりしました。

住吉大社田んぼ：・セトガヤ?(セトガヤ?.jpg) 網のフェンスの外から撮って偶然に写っていました。スズメノテッポウも写っていました。

田んぼはレンゲが満開でその中からハマヒエガエリなど色々見えたのですが、はっきり分かるほどには近づけませんでした。看板にはカワヂシャも書いてありましたがオオカワヂシャしか分かりませんでした。(4/25・北川)

§§<お知らせ>岡田三千代さん所属の研水会展が催されます。5/2～5/6 天王寺美術館地下展示会室です。記憶は定かではないのですが、雨滴が水に落ちている様を描かれているのが印象的で思い出します。今回はどんな絵に出会えるのか楽しみです。(4/28・太田理)

§§<エナガの巣>野崎まいり公園(野崎観音階段下左)に週に2日程仕事に行っているのですが、そこでエナガの巣作りを見つけました。前からいるスタッフに聞いてもエナガは見た事無いとの事でした。クロガネモチの木にしきりに寄っているのによく見たらすり鉢状の巣で、その後袋状に仕上げ、上の方に小さな穴を空けていました。蜘蛛の糸や苔で、中には羽毛を敷き詰めてその精巧な巣作りで巧婦鳥(たくみどり)とも言われるそうです。ところがその後観察するも寄ってきません。巣を放棄したのでしょうか。放棄の理由が良く分かりません。教えて下さい。

写真1：半分出来上がった巣(同僚スタッフの撮ったもの)3/19、2、3：一生懸命巣作りの最中(同僚スタッフの撮ったもの)3/19、4：出来上がりの巣4/14(4/30・太田)

§§<エナガの巣～回答>エナガは小さい鳥で、警戒心が強く、撮影者、観察者などが不用意な行動をとると営巣を放棄することがあります。またはカラスやヘビに狙われても放棄します。(5/1・平)

§§<ヨコヅナサシガメの食事>ほしだ園地までバイクを飛ばして、ムシを写しに行きました。その中の一つ、ヨコヅナサシガメが葉層に口吻を突きこんでいました(添付)。ナニ?としばらく見ていたら、口吻を抜いたらそれはミノムシの糞でした(添付)。ミノムシを食べていたのです。(4/30・平)

§§<新聞掲載>手前味噌ですが、5月1日毎日新聞大阪版に載せてもらいました。八尾市で市民活動を共にしている人と八尾「陸軍大正飛行場」(現在の八尾空港)のパンフを作り、八尾市民のみならず広く、八尾市の戦争の遺産を知ってもらいたいと...。ネットでも見られます。(5/2・太田)

§§<教えて>園芸種の名前、調査で見つけた野草名前教えていただけますか?

Aは西成区の千本小学校の花壇で見ました。

Bは港区港晴小学校の校庭に生えていました。この5月から大阪市の小学校で生徒と一緒に生き物調査をしています。偶然ですが、昨日杭全神社のある平野川沿いを歩いていましたらBを見つけました。この野草は最近増えているのですか?全く初めて見ました。アカザやヒユ科のように見えるのですが、同じ川沿いで花序の長いネズミムギを見ましたが枝分かれしていました。ホソムギのようなものもあり、この辺りものはネズミホソムギと思われます。長いノギのあるもの、短いもの、ないもの色々でした。もう忘れかけていたコシロノセンダングサも見ました。A,B分かる方がおられましたら教えて下さい。

(5/22・北川)

§§<回答>B はオオヒカゲミズ、港区にはよく見られます。(5/22・天野史郎) A はミソハギ科の *Cuphea hyssopifolia* クフェア・ヒソップフォリア (メキシコハナヤナギ)だと思えます。(5/22・木村雅行)

§§<回答お礼>天野さん、木村さん、どうも有り難うございました。メキシコハナヤナギはたまに民家のプランターで見ますが、ネットで調べてもうまく見つかりませんでした。ミソハギ科だったんですね。オオヒカゲミズは、全く初めて聞く植物でした。小学校では小さな池のそばや植栽地、平野では下に川が流れ、シャリンバイの下の陰に生えていました。毛が多かったのでミズのイメージは思いつきませんでした。教えていただいた 2 種、科さえも見当がつかず、未だ未熟で情けないです。これからもよろしくお願ひ致します。(5/22・北川)

§§<見てやってください〜七福神>かねてからの思い「宝船に勢ぞろいした七福神」を彫りました。この中で日本生まれは釣竿を持った恵比寿さんだけ、あとは皆外来です。神の世界も、生き物の世界と同じように、外来種がいればこそその賑やかさで、私たちが喜ばせているのですね。(6/6・平・)

§§<キイトトンボ>私市植物園でキイトトンボが発生しているとのことで写しに行きました。いつものところで 7 匹いました(添付)。大阪府絶滅危惧種のこのトンボ、毎年ここでは元気に生れ出ています。今日見たのは皆オスばかり、メスは 1 匹もいませんでした。オスが先に出ていてメスが出てくるのを待っていて、メスが出てきたら奪い合いになるのです。7 月に入ったらハート形の交尾の姿を写しに行きます。夏鳥もオスが先に渡って来て、営巣場所を確保してメスを待つのも同じですね。(6/22・平)

§§<キイトトンボ>6 月 16 日、三重県の島ヶ原で見たトンボと同じでした。名前がわからず、山田さんとなんだらうと言って見ていました。おかげで名前がわかりました。平さんありがとうございました。(6/23・田中光彦)

§§<見てやってください〜北斎波富士>北斎に挑戦してみました。厚さ 18 ミリの板に A4 大の額面で浮き彫りしました。写真を見ながら彩色しました。彫刻が、今の私を生かしています。(6/27・平)

§§<またまた見てやってください〜北斎富士>19 世紀のヨーロッパに渡りゴッホにも大きな影響を与えたという北斎の富嶽三十六景。その奇想天外な構図にひかれてまたまた彫ってしまいました。この樽職人、いつも富士山を樽の中に閉じ込めて背負いながら仕事をしていて楽しいでしょうね。(7/5・平)

§§<北斎・富士>またまた大傑作が出来上がりましたね。只々、感嘆するばかりです。実物にお目にかかれるのを楽しみにしています。暑さ厳しい折、お身体ご自愛ください。(7/5・西畑敬一) 西畑様、お褒めいただきありがとうございます。山を歩けなくなったこの身、今は彫刻刀が私を支えています。楽しいです。(7/5・平)

§§<犬も歩けば>朝 5 時、目が覚めたら、長雨がやっと止んだ。「ぜんぶ青」の空が老犬を誘い出し、久しぶりに星田新池往復を歩きました。道では、カナブン、ジョロウグモとカタツムリの幼体が待ち受けており、池の堤防で体操していたら、ホトトギスが山から声高らかに歓迎と励ましを送ってくれました。コオニユリも藪から花を出して挨拶してくれました。帰ってから朝飯の支度。明日も歩きましょうかい。(7/10・平)

§§<くろんど池>家内を週 1 回のデイサービスに送り出した後、全身に風受けて走る爽快さで猛暑を凌ごうとバイクを飛ばしました。(磐船〜田原〜茶筌の里高山〜くろんど池〜穂谷〜津田〜交野)、高山〜穂谷は山里を走る快適なコースです。立ち寄ったくろんど池は、樹影を映して満々と水を湛え涼しさを醸していました(添付)。しかし、どこを見渡しても鳥影もトンボも見当たりませんでした。ただ、コンクリの電柱にカタツムリが一つ、固着していました。このカタツムリ、カルシウム補給(殻維持に必要)のためにこの電柱を食べに来たのでしょう(添付)。2 時間ほど走りました。このコースは 4 輪では 4〜5 回、バイクでは 2 回目です。私のドライブコースです。(7/23・平)

§§<教えて・アレチノゲシ?>先週まで大阪市小学校調査で、忙しくしていました。夏休みに入り、一息ついています。さて、添付しました画像はアレチノゲシでしょうか?2018年7月12日鹿島小学校までの道でスタッフが撮ったものです。間違っていましたら、種名を教えてください。(7/26・北川)

§§<笑ってください~竜頭>彫刻をやりだしたら、竜を彫ってみたいと誰でもが一度は思うもので、私も欄間風の竜頭を彫ってみました。仕上げてよく見ているとこの龍、こわい顔を彫ったつもりがおどけて笑っています。笑って涼んでください。(8/9・平)

§§<竜の彫り物>またまた大作を仕上げましたね。竜の彫り物、みごとと言うほかありません。波富士に続き、感服この上なしです。実物にお目にかかれるのを楽しみにしています。ところで奥様の体調はいかがですか。暑さ厳しき折、奥様ともども、お身体くれぐれもご自愛くださいますよう祈念いたします。(8/9・西畑)

§§<クマゼミ>今朝、玄関に2匹のクマゼミの♂の死体が転がっていました。今年の夏は近くの山で鳴くクマゼミの音がやかましく部屋の中まで響き続けました。暑さが好きなこのセミにとって今年の猛暑は、我が世とばかりに快適だったことでしょう。この2匹のセミ、猛暑の我が世の夏を、一週間あまり鳴きつくし、命を次世代に残しての満足の死でしょう。庭の椿の根元に埋めました。(8/10・平)

◎編集後記：ほんとうにこの夏の暑さは“ハンパない”ですね。このところ大阪にも地震が起こったり、また、あちこちで大雨や洪水の被害も多発。そんな中、夏の高校野球は大阪桐蔭の春夏連覇や金足農業の雑草魂の話題も。会員の皆さんの投稿一何でもいいです、思うこと、こんなことあったで、こんなんでしょうか、などお寄せ下さい。編集や投稿に関して、お気軽にご意見などお寄せ下さい。(太田)

【諸連絡の窓口】 ◇会の代表者・会長：西畑敬一 072-876-8114

◇会費の納入・会計に関して：稲原良三 072-892-8507

◇会報の投稿・編集に関して：太田理 0743-79-9665 会員交流コーナーなども太田宛メールか郵送で送ってください。 ma36ux75ml@kcn.jp 〒575-0013 四條畷市田原台 7-5-2

北河内自然愛好会 年会費 1000円 郵便振替 00970-4-103735

目次

第395回例会「JR生瀬から武田尾廃線跡を歩く」安藤香子-----1

第396回例会「神戸薬科大学薬用植物園見学」栗田泰子-----1

第397回例会「八幡市男山(石清水八幡宮)観察会」栗田 泰子---2

会員交流コーナー-----3 編集後記-----6

カラーグラビア版-----別刷 例会案内-----別刷

岡田三千代さん画「キュウリ」

(カラーグラビア版でご覧ください)

